

令和7度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年8月1日
		指定年月日	平成17年8月1日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホームさくら園		
所在地	(〒244-0845) 神奈川県横浜市栄区金井町1600		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和8年1月31日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年行われている町内の祭礼にご利用者様も参加されています。去年からは、さくら園の駐車場で模擬店にも出店させていただきました。又、町内の葬儀時は園の駐車場を全面解放させていただいております。その他、AEDや発電機等『困ったときはお互い様』という昔ながらのお付き合いをこれからも続けて行きたいと考えます。事業所として町内に貢献できることを積極的に行っています。また、自然の多い環境も魅力の一つと考えます。四季を大いに感じる事ができ、リスやフクロウ、春には鶯の鳴き声も聞こえます。園の周りに桜がたくさんあることから、『さくら園』となりました。これからも地域一体となった運営を心がけて参ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和8年2月20日	評価機関 評価決定日	令和8年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇地域との連携 ・地域の消防団とは防災協定を結び、火災の時のみならずいろんな点で緊急時の助けをもらっています。毎年、消防団と、近隣の寺、事業所で共同の避難訓練を行っています。事業所の側に住んでいる消防団員も多く、日頃から事業所の様子を関心を持って見てくれています。 ・町内会の祭りには、神輿の休憩所を提供し、駐車場に模擬店を作り、近所の子ども達が集まって、スーパーボールすくいやかき氷を楽しんでいます。 ・金井バス停側の自動車販売会社で、町内3世代の集まりがあり、バーベキュー大会に利用者が参加しています。
【事業所が工夫している点】 ◇居室担当者の明示 ・利用者の居室入口には利用者名を記した名札を掲げているが、その裏面に担当する居室担当者名を記入している。それにより、利用者の担当者が分かるようになっており、家族から直接担当者に、足りない物や面会時に持参したい物などの相談があります。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばりユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議にて年間の園目標を職員皆で話し合い作成している。	・会社が2030年までに達成を目標とする「保健科学介護2030」を行動指針として、各ユニットに掲示し、ユニット会議で読み合わせをしている。その結果大きな声で挨拶ができるようになり、人に配慮ができるようになった。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等において自然に地域と関わる事も多く、ご利用者様始め、スタッフの顔も覚えて頂き、交流を図っている。	・9月の祭りには神輿の休憩場所を提供して、駐車場に模擬店を作り、かき氷やスーパーボールすくいを提供している。 ・1月に、消防訓練を、地元消防団と近隣の寺、事業所と共同で行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度の消防訓練等にて、年々地域の方の参加も増え、ご利用者様と直接関わる機会を増やし、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催。行政からの出席も多く、ご家族様の出席も徐々に増え、意見交換ができています。	・運営推進会議では、利用者の介護度UPによるスタッフの仕事量の増加をねぎらいの声があった。 ・事故報告では、事故防止のため事故発生時のスタッフの立ち位置を確認し、防止対策の話し合いを行なった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室が出た際は、区役所、地域ケアプラザへの連絡を密にし、日頃より連携が取れている。	・区高齢・障害支援課には区分変更でケアマネジャーが訪問し手続きを行なっている。 ・生活支援課から、担当職員が年数回生保者へ来訪している。 ・ケアプラザから入居希望者の情報をもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を第一に考え、玄関以外、ユニットの出入り口、浴室、薬庫への施錠をしている。	・身体拘束適正化委員会を、全社リーダー会で開催し、出席したリーダーは事業所職員に報告し周知している。 ・管理者は利用者の安全と身体拘束の見分け方を、職員と共に話し合っており、確認している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の年間課題の一つとして勉強会、自己学習を設け虐待防止への徹底を図っている。	・何が虐待に当たるのか、虐待に至らない介護の方法を、ユニット会議で話し合っており虐待に関する意識の共有をしている。 ・「高齢者虐待防止・権利擁護に関する研修」をオンライン研修で1月に実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は他ユニットで1名利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー同席の元、契約を結んでいます。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、意見交換を行い、行事や日頃の様子等をお伝えしている。	・利用者家族からの意見や要望は面会時や電話で聞く機会がある。 ・毎月、居室担当者が、「さくら通信」で利用者の生活の様子、体調、連絡事項等を、写真を添えて、利用者家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の管理者会議にリーダーも出席し、職員の意見等も反映されている。	・管理者は年2回職員の個人面談を行っており、職員に不安な様子が見られた時は随時面談している。 ・利用者への介護については、ユニット会議で討議し、利用者個人別に決定事項を作成している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を把握し、健康診断も定期的に行い心身の健康を保つ努力をしている。	・人事考課にあたっては、職員の不得意分野をどう伸ばすかの観点で査定を行なっている。 ・職員の健康診断は、通常勤務者は年1回、夜勤勤務者は年2回、事業所が決めた医療機関で受診している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定表に基づき、内、外部研修に参加する事で質の向上に努めている。	・研修は、オンライン研修として本部が決めた年間計画に沿って行っている。外部研修は区役所主催の感染症についてなどを受講している。 ・実践者や管理者等の資格取得のための研修は、全額会社負担としている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系例他GHへの研修を兼ねたお手伝い等に行くことで、自身のスキルアップや質の向上につながっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っている事を理解し、安心して生活できる事を第一関わりを持ち信頼関係を深め、自然な形で情報収集が出来るよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の様子は月1回のお便りでお知らせしたり、出来るだけ家族の不安なこと、困ったこと、要望されている事の応得られる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と良く話し合い、情報収集に努めご本人様にあつたご提案が出来る様にしていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に過ごし支え合う関係作り、少しずつその人らしさを出して頂けるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が近くにいらっしゃる方、遠方の方、すでにお身内のいない方と様々です。皆さん平等と一緒に暮らす家族と思い、少しでも心の支えになるよう努めます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人、知人等気軽に面会出来る場を心掛けます。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の成育歴や職歴等は入所時のアセスメントで把握している。 ・家族との面会時に、家族が持参したおやつと一緒に食べている。 ・旧友と一緒に教会に出かけ、外食してくる利用者がいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子や、個々の状況を常に考え、テーブルの位置等話し合い孤立させない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退室後、次の施設への面会、訪問を必要な情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時のアセスメントを基に、ケアプランを作成している、家族の要望を聞き、本人の希望や意向を取り入れている。	・利用者の思いや意向は、散歩時や入浴時の雑談から感じ取っている。 ・夜間でも、時間によるトイレ介助を行なっている。利用者の表情や仕草で排泄の欲求を感じ取れる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の記録や家族からの情報により、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの徹底、情報の共有には常日頃から心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ユニット会議等で全体の意見を反映出来るよう情報収集し、ケアプランを作成している。	・介護計画は短期3ヶ月で更新している。個人別に「介護日誌/介護記録」を作成し、毎日モニタリングを行なっている。 ・家族との面会時や電話連絡で、状況説明をして、介護計画への意見聴取を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人が利用者様に寄り添い、気づいた情報をみんなで共有し話し合い得るよう意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様も、入居年数が長いもあり以前と比べると外出出来る方は減ってしまわれましたがご家族から要望があれば対応できるよう努力しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいを大切にしています。園の行動の際、お手紙を配布させていただきご招待しています。(クリスマス会、花見、記念) 大家さんからは所有しているみかん、柿の声をかけて頂き、楽しませて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回内科往診を受け、その都度必要に応じて他病院との連携を図って下さいます。	・入居時、事業所の協力医制度の説明を行い、利用者や家族は理解し納得して契約を結んでいる。 ・内科協力医の月2回の訪問診療や歯科医師の検診の指示や助言により、職員、看護師は家族の理解、協力を得て健康や病状の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護（週1）で園とナース間に報告ノートを用意し処置や情報、指導などしています。またノートは医師とも連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、直接病院へ出向き後利用者様の様子を確認。医師や看護師空しかり話しを聞かせてもらう機会を作っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入床時に、事業所の重度化対応指針を説明し、同意書を受け取っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・病状が悪化し重度化した場合、担当医は、家族に対して病状や治療方針の説明を行う。担当医の指示に従い、事業所の対応を家族に説明し同意を得ている。 ・事業所での看取りは増加傾向にあり、24時間体制で対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りやターミナルケアは増加傾向にあり、担当者の疲労度も考慮する必要があります。看取り後にカンファレンスを行なって、職員のマインドケアの実施を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修のほか、マニュアルでの習得。地域の方と合同で行う消防訓練では応急処置やADEの実践も行います。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と会同訓練を定期的に行っており協力体制は図れています。	<ul style="list-style-type: none"> ・地区消防団との間で、非常時参集の協力体制の構築ができている。 ・災害発生時、3日分の食料の他、器具や日用品、医薬品等利用者の日常を守るための品物を備蓄している。屋外設置の飲料自動販売機は、災害時、地域に無料開放できる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重など職員が利用者に対して心掛けルべき事項を簡条書きにして貼り出し、実行しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健科学介護2030」は、高い倫理観に基づく行動や会話を求めている。日々唱和し実践している。 ・部長、ホーム長は職員の行動や発言内容を確認、チェックしている。 ・個人記録の書類は、事務所の鍵付きの書庫に保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人、得意不得意があるので無理強ひすることなく、利用者様ご自身から進んで行えるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合った作業や楽しんで行えるものを無理せずやっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で整える事が難しい方は一緒に着替えて頂いています。室温などにも注意し季節に合ったお洋服を着て頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事はみなさん楽しみにされています。美味しく楽しく召し上がるように嚥下体操を行い、利用者様に合わせた食事形態で召し上がっていただけるよう努力しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材や季節感ある料理で、楽しく食事ができる配慮をしている。 ・希望メニューは、工夫して行事食や誕生日食の中に組み込んでいる。利用者自身が作る「手作りやきそば」や職員の作る「ベトナム料理」は特に好評である。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に極端に水分量食事量が少ない方もいらっしゃるのので、提供表を管理し一日に必要な食事量、水分量を管理しています。ドクターに相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防につながる行いなので、ご利用者様ご自身が出来る場合は自分の力で行って頂き確認をし、出来ない利用者様は職員がお手伝いさせて頂いています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分でトイレに行ける方は自身で。出来ない方は時間で声掛けを行いトイレ誘導を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護のため、職員は扉を閉めて外で待機している。 ・夜間は、職員がトイレまで付添って安全を確保、確認している。 ・排泄パターンを把握し、やさしく声かけをしてトイレを促し、トイレ失敗を減少させる支援をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課のラジオ体操を行い散歩など身体を動かし無理せずとも排便が促されるよう努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日3名入浴を行い。ご本人気分がすぐれない場合は無理強いはしていません。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の際、プライバシーを保護し安心するため、入口扉と脱衣場のカーテンの両方を閉めている。 ・入浴介助者の性別については、利用者の希望に添うようにしている。 ・楽しい入浴となるため、しょうぶ湯、ゆず湯などを取り入れている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ラジオ体操、散歩、レクリエーションをして身体を動かし足浴などを行い夜間穏やかに休めるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様事にチェックシートがあり、職員同士でのダブルチェックでの努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方に出来る事をやっています。レクでの計算なども皆さんから答えになって下さいます。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などはお出になられますがしっかりした外出お行方方は少なくなりましたが、ご家族様協力の下実施されている方もいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、午後の時間帯に職員が介助して地域内の散歩を実施している。 ・散歩コースには神社やお寺もあり、ブドウやトマト、ミカン畑が楽しめ、春には桜が見られる。 ・車いす利用者が多く、全員の移動が困難なので、遠出は控えている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを防止為にも、入居時に家族へ説明させて頂き持ちこまないよう協力を得ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお電話などは取り次がせて頂き、1人では難しいご利用者様へ歯支援させて頂いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に職員と一緒に作った壁飾りや行事の写真を貼り、季節を感じられるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには、よく見える位置に時計と日付版を設置している。 ・段差の解消と丸テーブルで、車いす利用者も楽に移動ができている。 ・季節の行事を職員と利用者が協力し、塗り絵、折り紙、書道で作品を作りリビングや廊下に飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれる方多いですが、リビングで他の利用者様とお話されている方も多いです。皆様自由にお過ごし頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持って来て頂いて所どころに今までの生活が垣間見れるように工夫しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンとクローゼットは設置されており、利用者は使い慣れたベッド、布団、照明、カーテンや写真等の思い出の品物を持ち込んでいる。 ・居室担当職員は、日常生活の支援をとおして気付いた思いや気持ちを、次のサービスに生かしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「入っています」「空いています」の札を設置し、出来ることを活かして生活して頂いています。居室には入居者様のお名前を掲示しており、間違いないように工夫しています。		

事業所名	グループホームさくら園
ユニット名	うぐいすユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	園の目標は毎年度職員によって掲げられ、玄関に掲示されます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域の方との交流は依然として限られていました。それでも今年は町内の祭礼が復活し、参加できたことは大変喜ばしいことでした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内消防団との合同消防訓練は、毎年恒例となっています。地域の方も増え、利用者様はじめ職員も直接かわる機械が増えているため、理解を深められています。今年はやっとどおり実施され、参加することができました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、行政・民生委員・ご家族様も参加し、意見交換が行われています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所・地域ケアプラザとの連絡は継続しており、入居や空き室の情報共有を密に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の社内研修にて身体拘束の研修を行っています。その際、提出して頂いた報告書にて、内容の理解を判断しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の社内研修にて虐待防止の研修を行っています。ユニット会議はでの学習や自己学習を通して、虐待防止への理解を深め、虐待が起きないように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、現在両ユニットで1人ご利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、入居時には、管理者・ケアマネジャー・ユニットリーダー同席の上契約条項しながら契約をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度運営推進会議が開催され家族間で意見交換を行い日頃の様子等をお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の申し送りで職員の意見や提案を出し合い、介護現場に反映できるように努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課測定を実施し、職員の声を聞き、日頃の取り組みや業務に対して向上心を持って動けるよう自己評価や面談を行い業務に反映できるように努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場は、外部研修にも参加できるようになり内部・外部研修への参加を通じて、質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列のGHに研修を兼ねて手伝いに行く事で職員自身のスキルアップや質の向上に役立っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人様にお会いして生活歴や日頃の様子を確認し、入居後にどのように支援が必要か把握している。入居後は様子を見ながらご本人とコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りご本人様やご家族様の想いに沿って支援に努めています。利用者様の様子は面会時や月一回の「さくら園通信」でお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様とよく話し合い、情報を収集し、ご本人様やご家族様の希望に沿った対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳を守り、職員間でを共有し、ご本人が過ごしやすい場を提案しています。また、できることには声かけを行い、楽しみながら支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が家族の一員として安心して過ごせるよう支援しながら心の支えとなる関係づくりに努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出がほぼ行えるようになり、ご利用者様との関係が途切れないよう努めています。友人や知人からのお手紙や電話も積極的に受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地よく過ごして頂く為にトラブルが起きそうな場合はスタッフが間に入り、安心して過ごせるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が退所された後も、機会があれば他施設へ訪問や面会をさせていただきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを大切に、職員間の円滑な情報共有のもと、日常の会話における表情や言葉から、支援を行えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご家族様との十分な話し合いと生活歴の把握を行い、入居後もご本人様の様子を把握できるよう職員間で情報を共有し支援会議に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を活用し、職員間で申し送りを行いながら一人ひとりの状況把握に努め、適切な支援・介護の提供に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のモニタリングを通して、ご利用者様の様子や状態を把握し、必要に応じてケアプランの見直しに繋がっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のモニタリングを通して、ご利用者様の変化に早めに気づき、職員間で共有・話し合いながらより良い支援に逃げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お看取りを希望される家族が増加して参りました。時代の変化に合わせたニーズに柔軟に対応して参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを大切にし、町内のみかん狩りや町内のお祭りなど行事や交流を通して、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活を楽しめようしえんしています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診と、月1回の歯科往診、週1回の看護師の健康チェックを行い、医療の日が行き届様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護（週2回）園とナース間に健康チェック、報告や処置内容を専門ノートで共有します。その送りノートは医者と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、直接病院へ出向きご利用者様の様子を確認、医師との面談に同席しています。その面談の時に、問題点や注意点を医師や看護師としっかり話し合い、退院に繋げています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアでは、家族の希望が増えており、それに応える機会も増加しています。それに伴い、家族、病院、園との情報共有や連携がさらにスムーズになって		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や町内訓練を通じ、AEDや応急処置のスキルを重ね、マニュアルに奏沿った実践訓練も行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との定期的な消防訓練に参加しています。町内・園・消防署との関係を密に構築することで、災害時協力体制が図れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を家族のように思い、相手を敬う気持ちを忘れずに、一人ひとりに合わせた丁寧な声掛けや言葉づかいが自然とできるよう、職員への指導をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は一人ひとり得意・不得意が異なるため、無理強いすることなく、自分で選び自分のペースで行えるように環境を整え、職員にもその対応方法を徹底して指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合った作業やレクリエーションを、無理なく楽しめように提供し、職員も安全かつ快適に参加できるように指導しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の生活習慣を尊重し、身支度や着替えが難しい方には職員が支援し、室温や季節に合わせた服装で快適に過ごせるようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態を提供し、ムース食でも同じメニュー・同じ味で楽しんでもいただけるよう支援しています。また、毎食前の嚥下体操も欠かさず実践しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーなどは栄養士が管理しています。職員が食事・水分摂取量を記録して一日の合計を把握しています。摂取量が極端に減少した場合は、医師に相談していません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防のため、食事前の口腔体操や月一回の歯科検診で清潔を保ち、利用者様が自力で口腔ケアを行えない場合は職員がサポートしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分でトイレ行ける方は自分でできるように促し、行けない方には職員が時間を見て声掛けし、トイレへの誘導を行っています。また、利用者様一人ひとりに合ったおむつやパットについては、ユニット会議で検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課のラジオ体操や園外散歩などで、利用者様が無理なく身体を動かせるように支援し、水分摂取の声かけも行っています。排便状況の変化は職員に確認、記録させ、必要に応じて医師の指示を受け、適切に対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日3名の入浴を基本に提供しています。本人の希望や体調に応じて無理なく調整し、臨機応変に対応できる体制を整えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前には体操や散歩、午後は歌やレクリエーション、入浴以外の方には足浴を行い、日常的生活を通して安眠につながる支援体制を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとにチェックシートを用意し、複数の職員で確認する体制を整えています。服薬時にはスプーンを使用し、飲み込みの確認まで徹底して行い、必要に応じて個別のお薬の説明書を参照しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の「いただきます」や「ごちそうさま」の日直や、レクでも簡単な計算など、利用者様ができる体制を整えています。他の利用者様や職員からの声かけ、称賛を通して、主体的に生活に参加できるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩や定期通院に出かけております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族様へ説明し、利用者様同士のトラブル防止のため、持ち込みを控えていただくよう協力を得ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎやお手紙のやり取りについて、職員が適切に支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、階段に行事の写真や季節の装飾を掲示し、雰囲気を穏やかにしています。 部屋には表札と担当職員名を貼り出し、室温にも配慮して快適に過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用様は読書や塗り絵、テレビ鑑賞、カラオケなど、お好きな生活を選んで過ごされています。リビングでは自然と会話が生まれ、皆様が穏やかに過ごせるように雰囲気づくりに努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様は入居時から持ち込まれた思い思いの物を使い、慣れ新しんだ環境で過ごせるよう配慮しています。居室や共有スペースでもお家にいる感覚でゆったり過ごせるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋や廊下、洗面所には名前や札を掲示し、認知症の方が混乱せず安心して過ごせる工夫をしています。 トイレは「入っています」「空いています」の札を設置し、使用状況を表示することで、できることにを活かしていただいています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくら園

作成日 令和 8 年 3月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		看取り後の職員ケアにおいて、デスカンファレンスや面談などの振り返りの場が徹底されておらず、精神的負担や学びの共有が不十分となっているため、メンタルサポート体制・研修を行う必要がある。	職員の精神的負担を軽減するため、振り返りの機会を定期的に設け、安心して次のケアに取り組めるようにする。	・看取り後、ユニット会議でデスカンファレンスを実施する。 ・看護師やオンライン研修で看取りのケアの研修を行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。